2020 年 10 月発行

私たちアジアクラフトリンクは、現地の伝統技術・素材と日本の経験・
アイデアを組み合わせ、世界に通用する地域名産品を開発しています。
この活動で人材を育て、地域社会の持続的な発展を目指します。

特定非営利活動法人 アジアクラフトリンク

〒950-0205 新潟市江南区沢海 2-16　北方文化博物館西門広場内

tel:025-282-7440　e-mail: info@acl.or.jp　web: https://acl.or.jp

私たちのコンセプト

挑戦して成長し、持続的に発展する

ミャンマーの活動拠点、バゴー木工技術センターでの講習会

技術センターでの講習会

ミャンマーの伝統産業、素材には優れたものがあります。一方、日本には物つくりの豊富な経験や知識があります。両国の協力で世界に通用する名産品を作り出し、その経験が私たち含め人材を育てます。そして地域社会の持続的な発展につながります。

私たちの活動のコンセプトは物的な支援ではなく、挑戦する事で自分たちも含め参加者の成長を目指すことです。

バゴー事務所のスタッフ

外務省の日本ＮＧＯ連携無償資金協力事業の一部です

日本の直営店、フェアトレードショップ　Sai

作品例

スプーンで職業訓練

職業訓練

アジアウォールナットやビルマツゲを使って製作する「ベーシックシリーズのスプーン」はシンプルなデザインですが、材質と手作りの丁寧な仕上げによって、飽きの来ない作品です。当方のエントリーモデルとしても人気です。

作り手からすると、作りやすいシンプルな形です。このベーシックシリーズを練習台にして、バゴー市の若手を対象にバゴー木工技術センターで職業訓練を開始しました。

地域のベテラン職人に講師を依頼して、テキストや設備は作業性や品質を考慮し当会が準備しました。単に教えるだけではなく、実習品は買い取ることにして、実習生の経済支援と同時に真剣な作業を求めました。厳しさを求めると正直、修了者率は落ちますが、意欲のある人を育てて、工房へ紹介する事が、地域産業を支援する近道と考えています。

外務省の日本ＮＧＯ連携無償資金協力事業の一部です

2020 年 2 月改訂版カタログ　Ｐ７　詳細参照

生木の水分は 80%以上ですが、加工原料の木材にするには 15%以下に乾燥しなければなりません。不十分ですと、曲がったり、割れたりあるいはカビたりして不良品になります。しかし唐木に代表されるミャンマーの堅木は水に沈むほど硬く締まった材質で、日本の木と比べると乾燥は容易ではありません。日本の機械を導入すれば可能ですが、年収 100 万円にも満たない人々に高額機械の導入は難しい事です。何とか、現地の人が出来る方法の開発に取り組みました。

失敗を重ねて、やっとたどり着いた方法が、鰹節の製造を参考に、ボイルして材質の改善を図り、次にスモークによって乾燥する方法です。難関だった箸の製造でも、やり方によっては8%以下まで乾燥でき、完成した箸もそれまで悩まされた曲がりが、ほとんどなくなりました。

製作費用も 1 セット 3 万円以下の材料費で自作でき、維持費も木屑利用でほとんどかかりません。完全ではないけれど現地素材で、人々の手でつくり、容易に利用できる方法です。（上記写真参照）

電気式のボイル漕と乾燥庫を制作

実は火を使うと乾季に火事の危険性や夜間の管理が難しいなど難点があり、安全性と安定性を求めて電気を使った機器を開発しました。しかし、開発途中で電力料金が 3 倍に値上がりして計画変更を余儀なくされました。

データ測定

電気式は操作が容易で、近い将来の装置として期待しながら、現時点では、安定性を生かしてデータを測定し、現場の作業改善に生かしています。

天日利用乾燥庫

天日利用のエコな装置も製作

熱帯の直射日光利用のエコ乾燥器も試作しました。不安定ですが乾季には天日を利用して、補助装置として利用可能です。

外務省の日本ＮＧＯ連携無償資金協力事業の一部です

乾燥が出来て木箸が完成

　堅木の箸作りは木材乾燥で決まります。当初は乾燥不足のために曲がってしまい半分も商品になりませんでした。経験不足も加わり、お客様へもご迷惑をおかけしました。

　乾燥方法や道具の改良が進み、本来の良い材料と手作り技術が生きて、自信作が出来ました。

乾燥した堅木の打感音は澄んだ高音です。

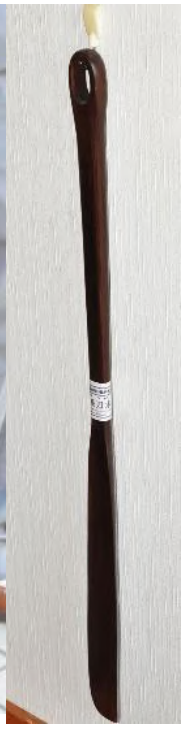
　曲がらない箸の出来上がりに8年を費やしました。次の挑戦は乾燥技術と鉄刀木の特徴を生かした細い木箸の製作です。

手作りでいろいろな削り箸を作っています。

　ミャンマーには良い材料があります。現在6種類の木材を利用して、各種の箸作りをしています。セット箱も始めました。塗装は透明ポリウレタン3回塗装で、素材を生かす仕上げです。

2020 年 2 月改訂版カタログ　Ｐ１６－１７に詳細掲載

長尺靴べらの改善



2005 年にオリジナルデザインで屈まない長尺靴べらを作りました。堅木の鉄刀木製などの手削りの作品は使いやすく当時の一村一品マーケット羽田空港店で大人気を得ました。しかし、乾燥不足で、一部に曲がる品が出てしまいました。改善策として現地でも出来る簡便な木材乾燥方法の開発に取り組みました。

一般的な蒸気乾燥は大掛かりな装置になり、現地での導入は難しいです。一方、ボイルする事は簡単にできます。いろいろと試した結果、ボイルする事で曲がりが改善できることがわかりました。長尺材料に合わせてドラム缶を継ぎ合わせた手作りのボイル漕で安定したボイルが出来ました。現地の材料を工夫し、現地に即した技術開発が実用化できた最初の事例でした。

丈夫な鉄刀木だからできる薄い先端仕上げ。履きやすいです。

肉厚で握りやすく、乾燥した鉄刀木の上品な質感は好評です。

2020 年 2 月改訂版カタログ　Ｐ３－４に詳細掲載

指掛けのある携帯靴べら

銘木”鉄刀木“（タガヤサン）を初めて手にした時の感動は忘れられません。1996 年ヤンゴンでの出会いでした。細かな年輪が印象的で、硬くどっしりした木でした。そして 2005 年にこの堅木の丈夫さを生かし、薄く仕上げて履きやすく、かつポケットで邪魔にならない靴べらを作りました。そしてもう一工夫、小さいけれど使い易さを考えて、指かけを作りました。オリジナルデザインの第一号作品です。この作品を当時の駐日ミャンマー大使館のウタンチョー公使に「これは、原料の丸太で売るより 10 倍の価値になり、国にも仕事が作れる」と紹介して懇意になりました。その後公使の紹介で開発途上国「一村一品マーケット」へ参加出来、現在の私達の活動へと繋がる、市場開拓を実践することができました。

水に沈む

重厚な木

鉄刀木は奈良時代に唐から運ばれ、唐木として紹介された高級材です。

2005 年開発当初はヤンゴン市内の提携先の工房で製作しました。現在はバゴー市内の提携工房にて製作しています。いずれも手作りです。

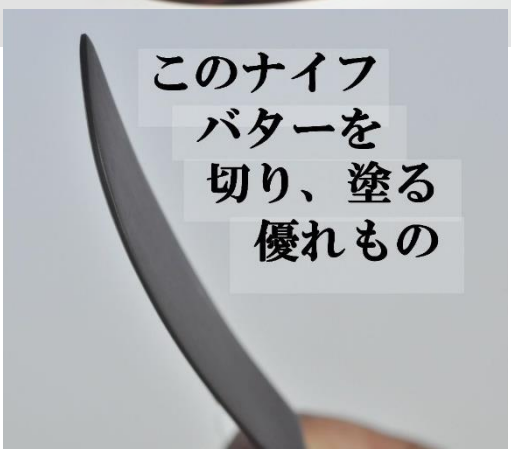
2020 年 2 月改訂版カタログ　P 5 に詳細掲載

指掛けがあるバターナイフ

オリジナルデザイン

1、硬いバターも切れるシャープな刃
　　堅木で薄い刃が実現しました。
2、塗り易い
　　指掛けと、反りの有る刃が特徴
3、マーガリンケースに収納できます。
　　ケースの凹みに合わせました

爽やかな朝食に
木のバターナイフとジャムナイフ



匙とナイフの合体、N53ジャムナイフ

2020年2月改訂版カタログ　P８詳細掲載

僕の器の誕生

学生がデザインした幼児用のスプーン

托鉢

2014 年、新潟デザイン専門学校での実習作品で子供用のスプーンを優秀作に選びました。このスプーンに合う容器として、ミャンマーのお坊さん達が毎朝托鉢時に持参する容器を参考に、こぼれない容器のデザインを考えました。離乳食にぴったりのかわいらしさと機能美のある器の誕生です。

かわいい手でも離乳食をすくい取れるようにふちに反りを設けました。さらに乱暴に扱っても壊れにくい、堅いビルマツゲで作りました。質感とナチュラルな雰囲気で人気です。

僕のスプーンシリーズ

用途に合わせ子供用のカトラリー18 種類

無塗装の白蝶貝スプーン

小さな唇で吸う形、ファーストスプーン

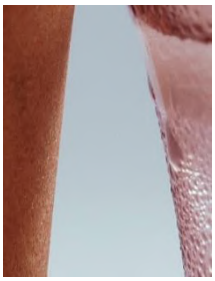
離乳食用のママのスプーン

小さな口に合わせ、噛まれても丈夫な木で作った「０歳児ファーストスプーン」、ママが赤ちゃんを抱きながら離乳食を食べさせられる「ママのスプーン」など、年齢に合わせた 18 種類の子供用カトラリーです。

木製品は洗浄しやすいなど取り扱いが容易で、かつ食品衛生法に合格したポリウレタン塗装をしています。また、南洋真珠が採れる白蝶貝を削り出して磨いただけの無塗装仕上げのスプーンもあります。

2020 年 2 月改訂版カタログ、Ｐ１０に詳細掲載

バゴー市のロクロ技術は高く、全ミャンマー技術コンクールでも上位入選を占めます。堅木で作ったカップ類は、薄い仕上げで独特の上品さがあります。一方、木製は断熱性が高く結露が少なく使いやすい実用品です



木製は右側ガラスと比べ結露が少ない

良い技術者が多いです

薄い仕上げの器は使い易くかつ、品格は高く、優れた作品です。しかし塊の木材乾燥が難しく、歪みや乾燥ヒビのために足踏みしています。

乾燥しやすいアカシアや松を利用するか、堅木でも肉厚に仕上げると現状でも作れます。しかし、ミャンマー素材の良さを生かした作品を作るために、乾燥技術の工夫が必要です。もうしばらくお時間をください。そしてクラウドファンディングなどで開発資金を募集予定です。ご興味ある方のご参加をお待ちしています。

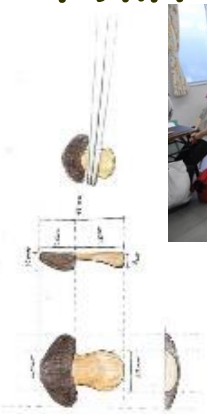
木のカップは 2020 年 2 月改訂版カタログ　Ｐ１３に詳細掲載

栗の箸置き物語

木の心材は濃い色ですが、辺材は色白です。この部分が混じると、薪材などにまわされます。しかし、この模様を利用して栗を作ったら、まさに本物そっくり！

栗を知らない現地職人も、作り込むにしたがって栗らしく作れるようになってきました。アイデアで付加価値と仕事を作り出す！　箸置きとして大人気になりました。

コラボで生まれたキノコの物語



優勝デザイン画

丁寧な手仕事

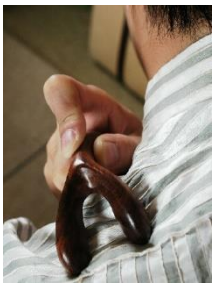
新潟デザイン専門学校学生とミャンマーの職人さんとのコラボ作品です。デザインコンペによって選ばれたイメージ図を元に、職人のゾーミントンさんが丁寧な手作業で作品に仕上げました。かわいさと質感があるキノコの箸置きが生まれました。人気品に育っています。

2020年2月改訂版　カタログＰ１５詳細掲載

勾玉デザインでいつでもどこでも！

中国発祥のお肌のお手入れ用カッサ。皮膚のマッサージ用具ですが、勾玉のデザインにして、ツボ押しも兼用できます。首から下げて、ペンダントとしても使えるようにしました。

もみのき・にぎり星



2005 年に現地の物を改良して日本へ紹介を始めました。“もみのき”は肩のツボに入るように角度を調整し、かつ眉間に合わせてリ・デザインしました。“にぎり星”は突起を改良して掌のマッサージ効果を高められるようリ・デザインしました。成田、関空の一村一品マーケットでも長い人気を誇ります。霞が関の官庁街でも“癒しグッズ”として人気を博しました。

2020 年 2 月改訂版カタログ　Ｐ１４に詳細掲載

手織産業の支援

ミャンマーの自然素材を利用する草木染はレベルが高く、手織産業も地方を中心に高度な技術が存在しています。しかし、海外マーケットに合わせた作品製作の経験が少なく、品質やデザインに課題がありました。そこで私たちは現地の織物教育の中心であるサウンダース織物専門学校の全国 14 校の教師を対象に、欧州含め世界の市場に通じる作品作りを日本の専門家の協力を得て指導しました。さらにその内容をテキストにして同専門学校へ寄贈しました。参加した 27 名の教師の作品から上位 7 名を選び、成田・関空の一村一品マーケットにて 2019 年から特別コーナーを設けて紹介販売し、海外市場を実経験してもらっています。
この活動は、「JICA 草の根技術協力」の受託事業として実施しました。

手織実習風景

成田空港店

作品例

講習会参加者

サウンダース織物専門学校学生

次の目標は、参加した教師から、この事業で実施した草木染・手織り製品の品質を高める経験を学生や地域へ伝え、付加価値の高い製品作りを実践し、伝統産業の存続・発展を図る事です。現地の専門家は育ってきました。今後は草木染・手織り製品を希望される市場関係者の方と新商品を共同開発し、産業育成支援を進めたいと考えています。ご興味ある方のご連絡をお待ちしています。

2020 年 2 月改訂版カタログ P18 に詳細掲載

標高 1800m/有機肥料栽培紅茶

中国に続くシャン街道から、四駆で４時間、ミャンマー・シャン州ナムサン郡の 1800mの高地は、700 年前から自然栽培で茶葉が生産されているミャンマー茶の故郷です。ミャンマーのソウルフード、発酵した茶葉「ラペットウ」を食べると、柔らかい甘みと苦みがあり高原の自然を感じます。(なお現在、紛争の影響で外国人は立ち入り禁止です。)

茶摘みの少女

1930 年イギリス製の葉もみ機

ナムサンの中心集落

ＣＴＣ紅茶は全自動の最新型機で製造

1930 年代からミャンマーの紅茶製造がここナムサンで始まりました。現在オーソドックスなリーフタイプとＣＴＣタイプの 2 種類を日本用に特注で製造依頼しています。現地ではミルクティ用の濃い風味ですが、日本人好みのストレートティ用のマイルドな風味を選んでいます。

2020 年 2 月改訂版カタログ　Ｐ１９に詳細掲載

竹細工

アジア各地に生育し、古くから人びとの生活雑貨に利用されてきた竹。長い歴史の中で、その加工技術やデザインは地域固有の文化として育まれてきました。

アジアクラフトリンクは「ミャンマーラタン・竹事業者協会」と提携して、ミャンマーの主要な竹製品とその生産地を調査し、世界に通用する名産品づくりを目指した共同事業を続けています。2019年には、シャン州域に位置するパオ自治区の村々を訪問。標高1000m を超える山あいの村で作られる、繊細でしっかりとした竹カゴに出合いました。

部位によって種類の異なる竹を使い分け、集落それぞれに受け継がれるデザインで手編みされる竹カゴ。自然由来の防虫処理など興味深い工夫も見られます。現在はまだ試作品ですが、専門家の皆さまの協力を得て、製品化を進めています。

ミャンマーには、直径25cm にもなる世界最大の種類の竹が生育しています。しかし、この特色ある素材も、現地ではその特徴を十分に生かした利用方法がまだ確立していません。ミャンマーには良質でオンリーワンの未利用資源が多く、その活用を促すことで、人びとの収入向上に繋ぐことができます。

2019年の活動は、国際緑化推進センターからの事業委託により実施しました

ミャンマーで植林をしています

アジアクラフトリンクは、2017年より、木工品の生産地であるバゴー地方で「ミャンマーの森づくりプロジェクト」を継続しています。ミャンマーの人びとが、限りある森林資源を持続的に利用できるよう、地域の皆さんと一緒に植林に取り組み、地域全体で環境意識を高めていくことを目指しています。

2020年には、レーインスー小学校で、子どもたちが大好きなマンゴーやグアバ、ジャックフルーツなどの果樹100本を植え、環境教育のための学校林づくりを支援。苗運びから植付けまで、先生や村の皆さんと力を合わせて作業しました。これからは、地域の皆さんの力で管理し、森を育てていくことになります。先生や村の皆さんの思いが込められた苗が、順調に大きく育つことを心から願っています。

ミャンマーの森づくりプロジェクトでは、一口3000円からご寄付を募っております。森林保全活動にご関心がある方、ぜひ、お問合せください。

現地の声

このたび日本の皆さんがご支援くださった学校林から、生徒たちは多くのことを学ぶことができます。私たち教師も、この木々を教育に活かせるよう頑張ります。学校を代表して、そして村人や生徒たちに代わって、皆さまに感謝を伝えたいと思います。ありがとうございました。

レーインスー小学校長
ニーザーナインさん

緑の募金

2020年の活動は、国土緑化推進機構「緑の募金」および個人のご寄付で実施しました